

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	スーパー（店長）	単価の動き	・乗客数は前年とほとんど変わらないが、客単価がわずかながら上昇している。特に生鮮食料品のなかで高額商品の動きが目立つ。
	やや良くなっている	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・夏のバーゲン全体を総括すると、客の商品選択に迷いがなくなったため、接客時間の短縮化傾向が見られ、従来の3分の2程度になっている。また本物志向は相変わらず顕著で、決して安くはないハンドメイドのハンドバッグが前年の2.5倍も売れている。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・ほとんどが真夏日で暑かったため、ワンピース、Tシャツ、ノースリーブのカットソーなど、洗濯に便利で着回しの利く商品が好調であった。特に3000円から1万円ぐらいのワンピースの売行きが突出した。後半には秋物商品もかなり入荷したため、ミセス客の来店も増加し、売上は前年比105%で推移した。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・テレビの販売台数は以前に比べて緩やかな伸びであるが、好調に売れている。冷蔵庫、洗濯機などの白物家電も順調に推移した。全体としてお盆期間を含めて、売上は前年をコンスタントに上回った。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	来客数の動き	・既存店の来客数は今まで前年比102%台であったが、8月は107.3%と上昇した。
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・来客数、売上とも前年を10%上回る状況で推移している。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・例年8、9月は売上のボトム期であるが、今年は前年を上回って推移している。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・今月は例年どおりの天候に恵まれ、愛知万博の影響を受けた前年とは異なり、個人客を中心に利用客数やや伸びた。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・住宅特別減税の恩恵を期待する客の駆け込み案件が出てきた。	
	変わらない	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・来客数は前年とあまり変わらない。客の様子は秋物商品をしっかり買う人と、セール商品を見てもなかなか購入につながらない人に二極化している。
スーパー（店長）		単価の動き	・客単価は回復してきた。買上点数も増加傾向にあるが、来客数は落ち着いている。	
スーパー（総務担当）		販売量の動き	・ホームセンター部門では夏のレジャー関連用品がよく売れたが、これは7月に不振であった反動とみられる。食品部門は猛暑の影響で飲料など限られた商品は売れたが、全体的な傾向は変わらない。	
スーパー（営業担当）		単価の動き	・来客数は前年並みである。石油の高騰により経費が増加している。	
コンビニ（経営者）		販売量の動き	・来客数は若干増加しているが、1人当たり販売量が若干減少しており、全体としては変わらない。	
コンビニ（経営者）		販売量の動き	・8月は好天に恵まれ、飲料、アイスクリーム、ビール類などが大変好調であった。売上ベースでも、前年に比べ5%増加した。しかし、主力のおにぎり、弁当、パンなどは前年を若干割る見込みである。商品によって、天候の影響が対照的に現れた月であった。	
衣料品専門店（経営者）		来客数の動き	・お盆の帰省客の来店も例年になく少なく、盛り上がり欠けた。	
家電量販店（経営者）		販売量の動き	・エアコンの売上は5～7月の売上不振による反動と厳しい残暑のため、前年比2けたの増加である。またテレビ、洗濯機も継続的に前年に比べ2けたの増加となっている。いずれも価格が高くて、客に欲しいと思わせる画期的な性能、機能を持つことで売上が増加した。	
乗用車販売店（総務担当）		販売量の動き	・ガソリンの高騰が続いており、当社の1000～1500ccクラスの小型車市場で軽自動車へのシフトが目立ってきている。	
乗用車販売店（経理担当）		販売量の動き	・相変わらずガソリン価格の高騰が続いており、自動車業界も軽四と小型車に傾注している状況は変わっていない。	

	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・例年8月の売上が最も多いステーキ専門店は、過去10年で最高の売上を記録した。高価な銘柄牛やワインの売行きも好調である。一方、料亭部門は例年最も苦戦を強いられる夏であるが、今年は法事の個人客が2倍近くあり、売上を底上げた。	
	一般レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・梅雨明け後、夏休みらしい人出が戻ってきた。競合店の影響はあるものの、今年はお盆期間が長かったため、来客数は前年を超えた。	
	観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・夏休み期間中は家族を中心に個人客の動きが好調であった。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・お盆前のタクシー利用客は何とか前年並みとなったが、お盆後は極端な前年割れとなった。県内のイベント会場には多くの人が出たが、利用客はあまりなかった。	
	その他レジャー施設(職員)	来客数の動き	・例年季節的に最盛期となる8月であるが、来場者数が減少した。特にお盆期間での減少が目立ったが、帰省客による利用が減ったように見える。	
	住宅販売会社(従業員)	競争相手の様子	・受注量は前年を下回り、客からは合い見積を求められるなど、競争が激化している。	
	住宅販売会社(総務担当)	お客様の様子	・イベントの集客はそこそこあるものの、営業に結び付かない客も多い。	
やや悪くなっている	衣料品専門店(経営者)	来客数の動き	・大手百貨店の撤退後、来客数、売上、通行量のすべてにおいて中心商店街の数字が落ちている。	
	乗用車販売店(経営者)	販売量の動き	・ガソリンの高騰や公共工事の減少などから、高級車の売行きは相変わらず厳しいが、比較的順調であったコンパクトカーにも陰りが見え出した。原因はやはり不透明な先行きを懸念しての買い控えである。	
	自動車備品販売店(従業員)	販売量の動き	・家電商品に押され、カー用品に対する支出額が少なくなっている。ガソリン高騰による省燃費用品については関心が高いが、単価が安いので売上減の歯止めにはなっていない。	
	スナック(経営者)	来客数の動き	・クラス会や団体の予約もなく、売上は前年の8割に終わった。店前の通りもひっそりした日が目立った。例年見られる取引先の創業記念日の予約申込みもなく、全体的に節約ムードが感じられる。	
	旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・ガソリン高騰の影響で、旅行を手控える傾向が見える。	
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・8月の予約進ちょく率は前年に比べ10%ほど低下している。9月の予約状況も前年同月の80%と低迷している。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・今月は真夏日が続く、週末を中心に夜の街への人出はあったが、日中は極力外出を控えているため、タクシーの利用はさっぱりであった。ガソリン高騰の影響が、節約ムードも見られる。	
	パチンコ店(店員)	単価の動き	・例年8月は売上の良い月であるが、今年は前年割れになった。	
	悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・連日猛暑が続く、商店街を歩く人もまばらである。商店でも夏物商品の品薄状態が続く、売上は低迷している。
住関連専門店(店長)		販売量の動き	・来客数、販売量、客単価とも悪くなっている。耐久消費財を扱う当業界は、勝ち組、負け組がはっきりしている。	
企業動向関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	一般機械器具製造業(経営者)	それ以外	・取引先、競争相手のなかでも、特に同業他社の設備投資意欲は強く、更なる乗せ計画が進められている。
		通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・インターネットを目的とした光回線の導入は全体として陰りが見えてきたが、前月に続き、電話設備の更改が好調である。
		金融業(融資担当)	受注量や販売量の動き	・ガソリンの値上げとともに、金利の引上げがいろいろ行われているが、この悪影響を心配する声はそれほど強くない。企業動向はまだ底固いものがある。
	司法書士	取引先の様子	・住宅新築、会社設立、取締役増員といった依頼が多くなっている。	
変わらない	食料品製造業(企画担当)	受注量や販売量の動き	・新商品は伸ばしたが、既存商品の落ち込みも目立ち、総量的に変化はない。	
	繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・昨年の冬物商品が一掃されたため、これからの冬物の生産は多忙である。	

	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・原材料価格の高騰に伴う製品価格の一部値上げについて、取引先に打診しているが、なかなかうまくいっていない。	
やや悪くなっている	精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・産地では、プラスチック枠関係のメーカーは年明けごろまでの受注は既に埋まっているようであるが、メタル枠関係のメーカーは今までの材料費の高騰に加え、ここへ来て再び中国製商品の国内流入量が増えていることから仕事量が減少している。	
	建設業（経営者）	競争相手の様子	・建設業者数は多過ぎるため淘汰されるべきと言われながらも、業者数はなかなか減っていなかった。しかし、最近ではわずかな負債額で倒産するケースが見受けられるようになり、いよいよ持ちこたえることが難しい局面になってきた。関連企業の連鎖倒産も懸念される。	
	建設業（総務担当）	それ以外	・工事コストが増加傾向にあるなかで、受注価格競争は一段と激しくなり、採算ラインでの受注機会は更に厳しくなっている。	
	会計事務所（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・観光レジャー関連では利用客数はある程度確保できているが、1人当たりの消費金額が減少しているため、忙しい割には利益につながっていない。社会保険料等の負担増や原油関連経費の増加が重くのし掛かっている。	
悪くなっている	-	-	-	
雇用関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の売上は前年同月比103%の増加である。地元での求人は若干減っているが、東京や名古屋からの求人が増加している。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・需要内容に対応できる、スキルのある登録者数が減っているため、クライアントは派遣利用に対し慎重になってきている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・最近では、パソコンを使う簡単な事務においても応募者のレベルがマッチせず、依然として人材不足状況が続いている。また、ケアマネジャーなど福祉関係の求人増が目につく。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求人数は前年比で増加傾向が続いているが、一方減少傾向で推移してきた新規求職者数に下げ止まり感が見られる。
		職業安定所（職員）	それ以外	・数年ぶりに求人申込をする小規模事業所が増加傾向にあるが、賃金や労働条件は良いとはいえず、求職者は敬遠している。
	やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・社員、アルバイトを含め、全体的な求人数は前年比約15%減少している。
悪くなっている	-	-	-	